

# Weplat 金融機関データ連携事例紹介

## 1、 導入経緯

関与先の黒字化達成のためには、自計化を推進し顧問先が数字に強くなれるようにする必要があります。また、記帳代行する時間を、節税にまつわる話や経営改善等の支援する時間として使いたいと思ったからです。

## 2、 実施件数

Weplat 金融連携 10 件

自計化率は、95%で金融連携率は 30%

## 3、 導入事例

農業・・・一番最初の試験的導入先（農家は現在 2 件導入）

売上先が JA のみ 売上・仕入共に取引先件数が少ない。Weplat 金融連携は、インターネットバンキングに記載されている摘要先で勘定科目を判定し、一度選んだ勘定科目を継続して仕訳してくれます。

取引先が少なければ、摘要と勘定科目との紐づけが少なり、導入としては簡易になります。この関与先は、期中現金主義で記帳。期末発生主義。

事業主が記帳に対して拒否反応があるため、私が訪問した際にマネールックに明細を取り込み、その後財務応援に仕訳として取り込む作業を行っています。

なので、実質この事業主は何も記帳作業を行っていません。

マネールック→財務応援読み込み→入力内容の確認の所要時間は、マネールックで 5 分→財務読み込み 5 分→内容確認 30 分です。

取引先が少ないため。月間の仕訳量は、月に 50 件から 60 件

導入して 2 年が経過するため摘要との紐づけもほぼ完成し、不確定の仕訳は月に 1 つあるか無いかで非常にスピーディーです。

問題点として、使用しているクレジットカードがコメリカードなため、マネールック非対応で読み込み作業が出来ない。マイナーなクレジットカードは Weplat 対象外になるので、注意が必要。

車両販売業・・・仕訳件数は、1,000 件以上/月で、売上の相手先は何百件、仕入先は何十件。期中は売掛金・買掛金の仕訳を取引先ごとに登録して記帳してもらう。

売掛金管理が不十分の関与先でしたが、補助簿を活用してもらい残高管理にも活用。Weplat で連携させておけば、取引先から入金があった際には、自動的に補助簿に記帳されるため、手間が削減されました。現在の補助簿の相手先は 1,000 件ですが、一度登録すれば、何年後かでもその相手先から入金があった場合には売掛金の補助簿に自動的に仕訳が計上されます。

ただ、手数料の差額処理は手での仕訳が必要となります。これも、AI とかの技術が発展すれば自動で記帳される日が来ると期待しています。

あと、借入金の返済では、元金と利息が一緒に一行で表示される場合、すべて借入金と記帳されてしまいます。これも手作業で修正する必要があります。金融機関によっては、元金と利息を別々で通帳記帳してくれるところもあるので、その場合は、分かれて仕訳が入るので楽になります。

部品製造業・・・2 代目奥様が入力しており、やる気能力ともに、、、

こちらから Weplat 金融連携を提案。仕訳が自動化されたが、残高チェックや入力内容の確認は先方ではしてくれない。こちらで資料を持ち帰り一日かけて内容の確認作業を行っている。

金融連携は摘要と勘定科目が紐づけされるため、問題が発生する場合があります。この関与先は従業員に対して給料と交通費を別々で支給するため、摘要に鈴木一郎と記載されていると給与なのか交通費なのかは、直前に入力されている勘定科目で記帳が行われてしまいます。適用が同じで内容が異なる場合でも、区別はしないので個別の確認作業と修正作業は必要となります。

個人事業主 3 件・・・開業と共に関与先

関与先になる際に、インターネットバンキング開設を依頼。

現金での購入は極力控えてクレジットカード使用を推奨。

クレジットカードもマネールックで読み込みできる会社を推奨。

現金での入力は、月に 20 件ほどで、あとは全て金融連携の自動仕訳で記帳。

関与先は、現金の入力と売掛金・買掛金のみ入力を依頼。

関与先からは非常に好評で、過去に使用していた会計ソフトには戻れないと言われる。楽が出来て、月末には先月の試算表が完成しているため経営の判断にも有効と感じて貰えている。

サービス業・・・金融機関が6件

個人の場合、インターネットバンキング開設には手数料がかからないが、法人の場合は1,000~2,000円ほど毎月必要になる。金融機関の数が多いサービス業だと Weplat 導入の際に銀行手数料が高くなると言われることがあります。

その場合、メインで使用する金融機関のみを IB に変更し、仕訳数が少ない金融機関は通常通り手での入力作業を行って貰うこととしました。

この顧問先は古くから IB を使用していた（三井住○）ため、IB が古いバージョンでマネールックと連携が出来ない IB でした。

そのため、新しいバージョンの IB に変更して欲しいと提案し手数料を調べてみたら、月額手数料は倍、給与の振り込み手数料は無料から有料、振込手数料自体も割高となっていました。

サービス業は口座数も増え、営業担当者に法人クレジットカードを持たすことが多いため、金融連携をする際に連携作業は煩雑となります。

エラーも頻発するため、初期の導入には苦労しました。毎月2から3回の訪問を6か月実施。しかし、何度も訪問したため、関与先との関係性は良くなりました。

## 4、 導入後の感想

金融連携を行うことによって、正確性と迅速性が格段に向上しました。事務所としても、記帳にとられる時間が短縮ことができ、業務の効率化に繋がりました。

私自身、パソコンに詳しい訳でもなく、IBも全く使用していなかったため不安しかありませんでしたが、マネールックと財務応援の設定さえ完了してしまえば、運用自体は非常にスムーズです。

関与先に導入しない理由は無いと思います。

しかし、事務所の中ではいくつかの葛藤がありました。

いままで記帳作業を担当していた女性従業員からすると未知の世界で、いままでの通常業務とは異なるため予期せぬ反発がありました。やはり、仕事に変革が起こるときは労力が必要になります。

- ・ マネールックの設定
- ・ 財務応援の設定
- ・ 摘要の紐づけ
- ・ 金融連携エラー（特にこれが大変）

活用している会計事務所も少ないため、まだまだ未成熟な分野ではあると思います。

## 5、 今後の展開

今後の展開としてフィンテックとAIは、会計業界に大きな変革をもたらすと考えています。パソコン会計が普及したように、今後はフィンテック AIを通常使用するようになると思っています。

時流に対応するためにも、是非一件でも良いので導入を行ってください。